資料２

「道内の感染状況等について（道案）」に対する主な意見

１　有識者・専門家の意見

１－①
新規感染者数は減少傾向にあるものの、道内全域で感染の発生が続き、一部地域では病床利用率が５０％前後で高止まりしており、今後、新たな変異株による新規感染者の増加も懸念されることから、新規感染者の発生を抑制し、医療への負荷を回避するため、全道を対象とした「まん延防止等重点措置」の延長を国に要請することについてやむを得ないと考える。

１－②
新規感染者が少しずつ減少しているとは言え、まだ2千人を越えていること、感染力の強いBA.2が道内でも確認されたことなどから、まん延防止等重点措置の延長が必要と考える。
小中学校での感染が収まらない状況にあることから、思い切った学校休校も必要と考える。また、小児ワクチン接種の促進を求める。

１－③
まん延防止等重点措置の国への延長要請についてはやむを得ない。その際、病床ひっ迫を減らし短期間で終わらせるというような対策や説明が必要。

１－④
道案に異論なし。
道内の感染状況は数値上は減少傾向とはいえ、十分とはいえず、病床使用率については、減少傾向とまで云えない。すでに延長要請予定を表明している他県の感染状況は本道と同等とみられる。身辺で、重点措置終了を見込んだ会食や学校行事が企画されている状況が見られるが、これらの中には重点措置が延長されれば再考されるものも多いと思われ、措置延長によって、感染が懸念される状況の発生抑止が期待できると考える。

１－⑤
医療提供体制や感染状況については、改善傾向がいまだ不明確であり、継続的な対策と感染防止行動の徹底が求められる。とりわけ保健所機能の維持・強化をはかり、長期化するまん延に対応していくことが重要。
まん延防止等重点措置の延長要請については異論なし。
社会経済活動への制約が長期化していることにより事業者、非正規を中心とする雇用労働者への影響が表れている。道は市町村と連携の上、影響状況の把握に努め、支援制度の活用促進を呼びかけるとともに、支援施策を拡充するよう国への働きかけを強めてほしい。

１－⑥
高齢者が感染した場合、入院調整に時間がかかっている。病床の確保が、一番重要。この状況では、期間延長はやむを得ないものと理解する。これから、人の異動の多い時期を迎え、感染対策の徹底を呼び掛けるのは大変重要。道の案に異論はない。

１－⑦
感染者数は高止まりしてピークアウトしているように見えるが、小学校の学級閉鎖数や幼稚園・保育園の状況は変わっていない。また、毎日複数の医療機関や高齢者施設がクラスターになっている状況であるため、道案の通り「まん延防止等重点措置」の延長はせざるを得ないと思う。ワクチン３回目接種が５割を越えれば、感染状況は大きく変わると考える。

１－⑧
道案に異存なし。
新規感染者数は減少傾向にあるが、病床使用率の減少傾向がみられないため、引き続きまん延防止等重点措置の継続は必要と考える。オミクロン株のBA.2系統への置き換わりも懸念されるため、慎重な判断をお願いしたい。

１－⑨
病床使用率の減少がみられないことや、BA.2系統の感染確認を延長理由としているが、オミクロン株による感染拡大に対するこれまでのまん延防止等重点措置の評価も踏まえ、道民に対して合理的で納得感のある説明が必要。

２　市町村・関係団体の意見

２－①
まん延防止等重点措置の国への延長の要請については、道の判断に委ねる。1月27日からの経過を踏まえ、これまで実施した施策効果の検証を進め、必要に応じ施策の見直し・追加など、早期収束を目指した対策を講じていただきたい。